

# あおたけ

まきび病院家族会機関紙 事務局  
〒710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田 2387  
TEL (086) 698-6511 2012.7 第157号  
ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/m/0/aotake/>

## <5月定期総会の報告>

定期総会は参加された正会員全会一致で事業報告計画・予算決算・監査が承認されました。

その後、こら一る岡山診療所の山本昌知所長を講師にお招きして記念講演「当事者から教えられたこと」が町内の方や当事者の方など50名以上の参加をえて開催されました。先生は四半世紀にわたり県精神保健福祉センターの所長として地域精神医療・公衆衛生の推進に大きく貢献、携わってこられました。

「現役で現場にこだわり続けてきたのは一色院長や多くの同輩との出会いが原点であり病気を体験した当事者の方から教わりつつ学べたから。援助しているつもりでも医師としての既成概念（病気を抱えながらでは仕事や結婚、子育てなどができないだろう、という思い込み）や既存のサポート体制では通用しなかった。

他の国と比べると日本は精神医療のみならず社会から孤立している人がより多く存在し、ほとんど家族に頼ってきた歴史と社会から切り捨てようとする構造がある。切り捨てられそうな不安があると症状（＝助けてほしいというサイン）が悪化し、問題行動、と見られてしまいがち。孤立から回復するためにはコミュニケーションや食事も含めた心身の健康が不可欠。

また本人らしさを中心において本人が決定・参加するプロセス・サポート体制が大切。特に入院が長期化すると応援してくれる人が少なくなってしまう

う。

社会の常識や枠に本人を当てはめようとしてもその人なりの個性がある」として具体的な数値を表や図に示してわかりやすくお話してくださいました。

質問でも Q「障害者の今後の展望は？」 A「自ら自分の言葉で語り始める時代になってきて私は期待している」など励みになる言葉をいただきました。

## <6月定例会の報告>

23日、自由討議を開きました。

「子供の病気と長い間付き合って得られたこと」

時間はかかっても失敗してもいいから自分の力でこころがときめいて本人なりの目標を持って生活技術を獲得・達成してくれた時の喜びは大きい。障がいがあってもその人なりの役割があるということを感じて見守るのは大切。怠ける、という意味ではなく能力以上の無理をしないほうが親自身も楽。

より多くの人に気軽に家族会へ参加・話して楽になってほしい。本人も家族も仲間がいるのはとても心強いこと。

## お知らせ

① 7月定例会は19日（木）13時30分～、別館1階あおたけの間で自由討議を行います。

② 8月定例会は25日（木）13時30分～、別館1階あおたけの間で自由討議を行います。

いずれも親亡き後、や家族の上手な気分転換方法など意見交換できれば、と思います。